臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報

平成29年(2017)新春号

川岸早春

この絵は、早出川と阿賀野川の合流地点を下った阿賀野川支流である子阿賀野川(こあがのがわ)に停泊する砂利取り船を未だ早春の頃、万願寺付近で描かれたものである。この川は、また、五泉を流れる能代川と早出川をこんな下流でつないでおり、不思議な縁とロマンを感じる。　絵の提供・五泉市在住の**鈴木 長治**氏（旧中３４回）

新潟県立村松高等学校東京同窓会　No. 58

～幻の建国大学卒業生～

東京同窓会会長　金子　鶴男（高５回）

一陽来復の春、皆様のご健勝を心からお慶び申し上げます。本年の十二支季節の花は「金鶏菊」です。本年は明るく、煌びやかで楽しい年になるそうです。

川越へ居住して５０数年過ぎました。市内に歴史と伝統の川越高校があります。甲子園に２回出場しています。卒業生に有名人が多くいますが、平成２７年にノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章氏（高２９回）もその一人です。その川越高校卒業生名簿の出身欄に建国大学（旧川中１４年卒）出身者が載っていました。現在９４歳でご壮健だそうです。

私の親戚筋（旧松中１３年卒）が建国大学予科を受験したが、残念ながら失敗したことを思い出しました。その際、友人は合格したと聞きましたが、お名前は伺っておりません。

そこで、建国大学を調べてみようと思い立ちました。２０１５年（平成２７年）開高健ノンフィクション賞を受賞された三浦英之著「五色の虹」を参考にしております。１９３８年（昭和１３年）当時、関東軍が主導した傀儡国家・満州国で国家指導者を育成するため最高学府「建国大学」が、満州国の首都新京・現長春に創設されました。日本、中国、朝鮮、モンゴル、ロシアの各民族からエリート学生が集まりました。２万余名の受験生のうち、合格したのは僅か１５０名だったそうです。

1　窓は夜露に濡れて
　　都すでに遠のく
　　北へ帰る旅人ひとり
　　涙流れてやまず

2　建大　一高　旅高
　　追われ闇を旅ゆく
　　汲めど酔わぬ恨みの苦杯
　　嗟嘆（ああ）干すに由なし

一番から始まる「北帰行」は、昭和３０年代に歌声喫茶で歌われた曲を採譜、アレンジしたと云う。作詞者、作曲者は、満州在住者で旧制一高受験に失敗し、建大予科入学後も校則違反で放校、次いで旅順高校に入学するもここでも校則違反で退学になり、まさに歌詞そのままの豪快なエピソードを残した人もいます。終戦と同時にこの大学も閉校となりました

戦後、卒業生たちがたどった運命もまちまちで、「建国大学」卒業生であったことを伏せなければ生き延びられなかった時代を過ごした人も多く、優秀な頭脳と語学力を有しながら職に就くこともままならず、不遇の人生を送ることとなった人が大半であったようです。中国人の卒業生は、もっと悲惨だったと言われています。日本の帝国主義への協力者と見なされ、その後の国共戦や文化大革命で強制労働を強いられ、多くの命を落とされたと語られています。　朝鮮族で朝鮮へ戻った人は、韓国の建国に有用な人材として大統領になって活躍された人もいます。建国大学出身者は約１４００人で、そのうち約３５０人は現在確認されており、残りの大半は安否さえ分かっていません。平成２２年、東京都内のホテルで最後の同窓会が開かれました。同窓生は「民族協和の心を忘れないでいきましょう」と語っていました。

最後の同窓会で、記念写真に収まる「満州建国大学」の卒業生たち＝８日、東京都千代田区、古川浩撮影

さて、旧松中１３年卒の先輩が今もご壮健でいらっしゃいましたら、是非ともご講演をお願いしたいものと念願しております。建国大学卒の旧川越中卒業生が歌を詠んでいます。

・　歴史の波に消え去りし我が大学の暗きさだめ
　　ノンフィクションの賞に選ばる

・　民族の協和を地上に築かんと“五色の虹”とう題名に唱えしか

想いはいつまでも！　夢のある限り挑戦！

第６０回　村松高校　東京同窓会定期大会　記念講演

生島清身さんの創作落語講演「天国からの手紙」のお知らせ

≪講師のプロフィール≫

大阪市出身。東京都在住。

秘書業務、インターネット関連業務を経験後、４１歳で不妊治療をスタート。仕事を休業し不妊治療に励む傍ら、着物好きが高じ繁昌亭落語家入門講座に通い、その後「天神亭きよ美」という高座名で社会人落語会に参加。また、不妊治療を通して「いのち」について深く考えはじめる。

行政書士試験合格後、きよみ行政書士事務所を開業。

・平成２９年６月３日（土）１２：００頃より

行政書士・社会人落語家 天神亭きよ美

遺言・相続業務の一環としてカルチャー教室にてエンディングノート講座講師を務めたのを機に、市民講座や終活セミナー等でエンディングノートを活用し人生を見つめ直してみることを提案する講演活動を始める。

遺言知識を深める落語「天国からの手紙」を創作し落語の力を借りて遺言・相続を前向きに明るく伝えることに挑戦中。

演目は２題

・遺言・相続の知識を深める落語「天国からの手紙」

・人生を楽しむためのエンディングノート講座

●「天国からの手紙」あらすじ

息子二人、娘一人が見守る中、病室にて母があの世へ。母は天国へ行き、天国の案内人と出会い、遺産が不動産のみで相続人が複数いると必ず相続争いがあることを聞く。また、ペットの世話を頼んでいる良子さんに財産を残したい時は遺言書が必要なことを教えてもらう。

天国の案内人の指導のもと遺言書を作成し、天国の案内人のすすめで同時に息子、娘にあてた手紙もしたためる。遺言書と手紙を病室に置いてきて、またすぐに天国へ戻り、天国から息子・娘の様子を見守る母。最初は言い争いをしていた子どもたちも、母からの手紙を読んで改心。相続問題も一段落し三途の川を渡ろうとする母、そのとき大事なことを思い出す……

平成 29 年度 県立村松高等学校東京同窓会開催のお知らせ

◆日時　２９年６月３日（土）

第６０回定期大会

＊午前１１時半　開会

＊１２時頃より

生島清身さんの講演

◆場所　ホテル グランドパレス

千代田区飯田橋 1-1-1

TEL：03-3264-1111

◆申し込み　事務局まで

１６ページに掲載

交通　●地下鉄「九段下駅」

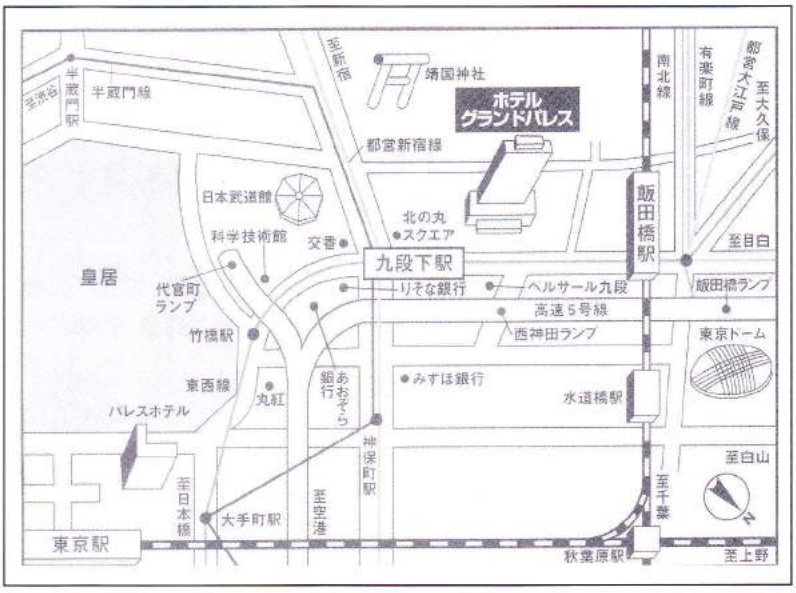
＊東西線７番出口より徒歩１分

＊半蔵門線・都営新宿線

3b 出口より徒歩３分

●JR・地下鉄「飯田橋駅」より

徒歩７分



平成27年度　収支決算書

平成27年4月１日から平成28年3月31日まで

費目		決算額	備考
収入	前年度繰越金	94, 433円	
	会　費	1, 328, 000円	
	（年会費	552, 000円）	184名分の会費
	（大会費	776, 000円）	第58回大会出席者97名分会費
	寄付金等	146, 000円	
	本部助成金	50, 000円	
	雑収入	504, 048円	ピアノ修復残金含む
	合　計	2, 122, 481円	
支出	大会費用	930, 506円	第58回大会経費
	会議室借用費	69, 760円	常任幹事会2回、幹事会6回
	広報活動費	174, 154円	会報発行関連費ホームページ
	通信費	82, 911円	ハガキ代、郵送代他
	渉外費	110, 500円	本部同窓会出席、..県人会賛助会費他
	諸雑費	101, 549円	封筒作成費、振込代、コピー代他
	合　計	1, 469, 380円	
（収入）2, 122, 481円－（支出）1, 469, 380円＝653, 101円　次年度へ繰越			

決算及び収支報告書は監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

平成２８年　４月３０日　　会計監事　片柳　ムツ　㊞

会計監事　高岡　五百子　㊞

以上の通りご報告いたします。

平成２８年　６月　４日　　東京同窓会会長　金子　鶴男　㊞

財務委員長　徳永　道子　㊞

平成27年度　寄付者と寄付金（敬称略）　“まことにありがとうございました”

70,000円　村松高校同窓会ご祝儀
10,000円　五泉市長ご祝儀
8,000円　8回生有志
5,000円　金子　鶴男、武藤　三郎、片柳　ムツ、徳永　道子、高岡　五百子
4,000円　鈴木　健司、畔田　昭義
3,000円　今井　英雄、松澤　綾子
2,000円　篠川　恒夫、山崎　輝雄、吉井　清、石黒　四郎、大橋　貞夫
石黒　勝夫、笠原　静夫、平山　誠一、高見　ハル
1,000円　高井　恵美子

寄付金合計　146,000円

平成２８年度　東京同窓会事業計画（案）

【一般事業】

随　　時	会員名簿・幹事名簿等の加除修正発行及び保管（総務委員会）
６月　４日	平成２８年度定期大会の開催　会場・ホテルグランドパレス
８月２１日	本部同窓会総会への出席
２月　　日	東京同窓会会報誌　新春号（NO５８号）の発行（広報委員会）
２月　　日	東京同窓会平成２８年度決算見込みと平成２９年度予算案の策定（財務委員会）
随　　時	東京同窓会ホームページの更新管理（広報委員会）
随　　時	東京同窓会の運営に伴う会則の改正（総務委員会）
随　　時	東京同窓会幹事及び会員等研修会の企画立案（総務委員会）
随　　時	他校同窓会との交流会等の企画（総務委員会）
随　　時	東京同窓会所有物品の整備及び管理保管（財務委員会）

【特定事業】

随　　時	「甦れ　松高！」　母校の発展を考える会運動の企画及び実施（総務委員会）
随　　時	東京同窓会会員増強へ向けた取り組みの企画及び実施（総務委員会）
随　　時	東京同窓会の広報宣伝及び会費増収手法の研究（広報・財務委員会）

平成２８年度予算書（案）

（平成２８年４月１日から平成２９年３月３１日まで）

	費　目	予算額	備　考
収入	前年度繰越金	653,101円	ピアノ修復残金含む
	会　費	1,370,000円	
	（年会費	570,000円）	3,000×190名
	（大会費	800,000円）	8,000×100名
	寄付金等	100,000円	
	同窓会本部助成金	50,000円	
	雑収入	1,000円	預金の利息等
	合　計	2,174,101円	
支出	大会費用	950,000円	第59回大会経費
	会議室借用費	80,000円	常任幹事会、幹事会、各委員会の開催
	広報活動費	200,000円	「会報」発行関連経費
	通信費	130,000円	はがき・切手代、宅配便等
	渉外費	180,000円	本部同窓会へ出席、県人会賛助会費他
	諸雑費	100,000円	ホームページ、コピー代、消耗品等
	予備費	534,101円	
	合　計	2,174,101円	

以上、提案いたします。　　平成２８年６月４日　東京同窓会長　金子　鶴男

財務委員長　徳永　道子

村松高校東京同窓会　第５９回大会報告

広報委員　石黒勝夫（高１４回）

６月４日（土）、千代田区飯田橋のホテル グランドパレスにおいて第５９回定期大会を開催した。

来賓として同窓会本部の荒木快英会長、母校の櫻井麻利子教頭、後援会長の伊藤勝美五泉市長、交流している長岡工業高校同窓会東京支部の原副支部長ほか８名の役員をお迎えし、総勢１１６名が参加して、鈴木長五・林信子両幹事の司会で開会となった。

第一部総会は、校歌斉唱で幕を開け、金子鶴男会長の挨拶の後、母校同窓会の荒木会長、櫻井教頭、伊藤市長、原副支部長の皆様から心温まるご挨拶をいただいた。

この後、総務・財務・広報委員会の各委員長からの活動報告や決算・予算・事業計画等を承認。続いて本年は役員改選期にあたり、金子会長を再選して終了した。

第二部の講演会は、講師に北朝鮮による拉致被害者で新潟産業大学准教授の蓮池薫さんをお招きし、「拉致問題の本質を語る」と題して“拉致事件の真相や、なぜ拉致問題の解決が進展しないのか”などを中心に約一時間に亘りご講演いただいた（講演の大要はＰ８～９に掲載）。

なお、会場で拉致問題の解決に向けた支援金を募り、６４,０００円の寄付金が集まり、蓮池さんに託された。また、用意した支援バッジ５０個も完売した。

第三部の懇親会は、篠川恒夫顧問の乾杯でスタート。蓮池さんとの記念撮影に列ができるなど、賑やかな雰囲気で進んだ。やがて真水道子・山田俊治のご両人を始め、おけさ「雪の会」の柴山・宮内氏の「佐渡おけさ」が始まり、大勢の会員と共に大きな踊りの輪が出来上がった。

終わりに校歌・応援歌の大合唱で盛り上がり、鈴木多喜男顧問の手締めでお開きとなる。

有意義な一日となって、満足感を胸に抱きながら再会を約しホテルを後にした。

東京同窓会・第５９回定期大会収支報告書

平成２８年６月４日（土）　於 ホテル グランドパレス

収入の部（単位：円）		支出の部（単位：円）	
①会費　(107 名×8,000 円)	856,000	①懇親会費	792,140
②会員寄付金（有志）	34,000	②講師謝礼他	61,400
③同窓会本部祝儀	60,000	③同窓会本部対応費	39,552
④伊藤五泉市長	10,000	④通信費	83,944
		⑤諸雑費	27,609
収　入　合　計	960,000	支　出　合　計	1004,645
一般会計から補填	44,645		
総　　計	1,004,645	総　　計	1004,645

善意の寄付金を蓮池氏に託す

蓮池薫先生の講演

おけさ「雪の会」と共におけさ輪踊り

校歌・応援歌の熱唱

名司会者の鈴木さんと林さん

鈴木・篠川両顧問の手締め

第59回 東京同窓会出席者名簿

平成27年6月4日(土)　於 ホテル グランドパレス 3F「白樺」　新潟県立村松高等学校東京同窓会

来賓・他（21名）	高校（22名）	高校（27名）	高校（31名）	高校（15名）
講 師　蓮池 薫 様	02 篠川 恒夫	10 大橋 貞夫	15 鈴木 長五	21 佐藤 克
		10 新保 優	鈴木 長武	
村松高校同窓会	03 小池 生夫	10 宮沢 正由	15 高岡 光夫	22 大橋 利光
本部会長	03 渡辺 八郎	10 小島 典子	15 堤 桂子	22 笠原 和夫
荒木 快英 様(高4)		10 真水 道子	15 高橋 泰子	22 濱田 守
本部 副会長	04 鈴木 多喜男	10 大橋マツエ		22 平山 誠一
浅田 光雄 様(高20)			16 郡司 正大	22 柴野 暢夫
滝沢 義則 様(高22)	05 金子 鶴男	11 佐藤 赳	16 中村 俊枝	22 阿部 モヨ子
本部事務局	05 雲村 俊慥			22 松澤 綾子
熊倉 富美子 様		12 近藤 洋輝	17 黒井登起雄	22 難波 幸博
酒井 加代子 様	06 畔田 昭義	12 今井 英雄		22 黒井 和男
		12 安部 實	18 青木 敏和	黒井 由貴
村松高校 後援会長	07 加藤 喜七	12 高岡 五百子	18 斉藤 正義	22 岡 信子
五泉市長	07 宮川 裕皓	12 徳永 道子	18 江口 浩市	
伊藤 勝美 様		12 桑原 トム	18 五十嵐 力	23 福田 奈保子
村松高校 教頭	08 山崎 輝雄	12 渡辺 厚子	18 石井 清昭	
櫻井 麻利子 様	08 塚田 勝	12 田淵みやの	18 三室 茂和	25 林 信子
	08 吉井 清		18 笠原 静夫	
長岡工業高校同窓会	08 鈴木 輝雄	13 金子 健二	18 岩野ハナエ	
東京支部	08 岡部 ユキ	13 小黒 雅晴	18川名 ハルミ	64 斎藤 麻依
副支部長 原 勝英 様	08 片柳 ムツ	13 武藤 正昭		
事務局長 大関 稔 様	08 木村 孝子		19 石黒 久七	
統括理事 金井 博光 様	08 波多 ミサエ	14 石黒 勝夫	19 佐藤 知伸	
統括監事 片桐 謙一 様	08 山西 愈佐子	14 熊倉 道雄	19 武藤 達家	
理 事 杉本 久栄 様	08 久我 マキ	14 山田 俊治	19 野平 茂子	
理 事 元井 忠夫 様		14 斉藤 正克		
理 事 星 富夫 様	09 石黒 四郎	14 加藤 延雄	20 安中 信夫	
理 事 浅間 文夫 様	09 石本 良郎	14 高見 ハル	20 重黒木賢二	
理 事 成田 修 様	09 増田 訓英	14 横溝 美枝子	20 吉田 晴男	
		14 片山 徳子	20 小笠原よし子	
おけさ「雪の会」		14 猪口 成吾	20 安達 繁子	
柴山 静子 様			20 三宅 紀子	
宮内 富子 様			20 山本 悦子	
			20 宮腰 和男	
賛助会員			20 白井 収	
小倉 和助 様			20 弦巻 功	出席者合計
竹内 貞 様				116名

金子会長あいさつ

荒木同窓会長あいさつ

伊藤五泉市長あいさつ

櫻井教頭あいさつ

第５９回　村松高校　東京同窓会　定期大会　講演会

～ 拉致問題の本質を語る ～

講師　新潟産業大学経済学部准教授　蓮池　　薫さん

平成２８年６月４日（土）、ホテル　グランドパレスにおいて行われた標記講演会の大要を再現し、掲載します。

皆さん、こんにちは

村松高校には、大学の出前授業「韓国語の魅力」で講話をするなど、お世話になっています。今日は、拉致被害者として「拉致問題は何なのか」「何故、拉致問題は進まないのか」を中心にお話ししたい。

拉致解決への問題点

２年前、政府は北朝鮮と拉致問題の解決に合意しました。経済制裁を解除し、調査委員会を立ち上げるところまでいきました。期待しましたが、１年２年経っても何も進展しませんでした。何が問題だったかと言うと、戦後の引き上げの際の遺骨の問題、日本人妻の行方不明などの問題が出て、肝心の拉致問題はさっぱり。拉致１７人（他にも沢山います）の内５人は分かるが、残り１２人のうち８人死んだという。つじつまの合わない話しばかり。まったく信じられないということで拒否しました。

今年に入って、北朝鮮の水爆実験やミサイル発射などで制裁を強化したため、調査をしないと言ってきました。今更調査ではなく、１９９０年代以前、拉致被害者は、どこに誰が居るか、掌握されているのです。トップが決断すればいいだけのことです。したがって、調査を中止しても何ら堪えることはありませんが、返してもらう日朝間交渉が出来なくなってきていることが問題なのです。

２，３か月前、アメリカが行った金融制裁や４月に入って中国への石炭輸出も３０％以上減。こうしたことが今後も続くと思われると、北朝鮮の実態は苦しい状況にあるはずです。北朝鮮は新たな局面を迎えています。

解決に向けた大事なこと４つ

１つは、拉致解決のメッセージを送り続けて欲しい。

２つは、対話と調査よりも、返して欲しいと主張し、帰国に向けて話し合いをして欲しい。

３つは、交渉だから見返りも考えるが、核やミサイル開発に回らないよう、例えば、食糧などの人道的支援や生活インフラの整備です。

４つは、拉致問題を一発で解決することは無理。向こうから出してきたら評価し、次に進もうとしないとダメ。それでは足りないと突っぱねたら進みません。時間をかけてでも１人でも多く返してもらうことが大事です。

拉致問題の本質的内容

「拉致の目的」は何か。拉致は誰がしたかによって目的も変わってきます。軍隊か秘密警察か朝鮮労働党か。

次に、「拉致をいつやった」か。７８年（昭和５３年）６月～８月の３か月の間に、１７人のうち９人が拉致されました。ほかにレバノンやルーマニア人も。

また、「どこがやった」か。朝鮮労働党対外労働調査部が７８年（昭和５３年）の３か月の間にやりました。その目的は、若い人達をどこからでも連れてきて、北朝鮮に都合のよい工作員に育てて利用することにあります。

私が拉致されたのは

７８年（昭和５３年）７月３１日、大学の夏休みで帰省し、今の家内と柏崎市の海岸でデート中、人がまばらな方に行ったら、上手の上を後ろから数人がついてきました。一方、前の方からたばこの火を、とうまい日本語で話しかけながら人が寄ってきました。火をつけた瞬間、後ろから来た数人にいきなり殴り倒され、くぼみに引きずり込まれ、強い力で押さえつけられました。その後、夜になって袋に入れられたまま、沖合からきたボートに乗せられ、清津（チョンジン・軍港）に。何を聞いてもピョンヤンに行けば分かるとの返事です。彼女のことを聞いても知らないと。

１０日間過ごした後、ピョンヤンにある招待所という秘密のアジトに連れて行かれました。

招待所というところ

ピョンヤンの招待所は、山の上のあちこちにありました。招待所全体は鉄条網で囲み、秘密のベールに包まれています。３～４、５部屋あり、女性が一人ずついて面倒を見ていて、そこに工作員がやって来ます。工作員は、一流大学を出て鍛えられたエリート。閉じ込めるような感じにして教育します。こちらから何を聞いても答えず、ニヤニヤして“心配するな、北朝鮮は立派な国だから勉強しなさい、立派な革命家になれ”と言うのみ。彼女のことを聞くと、女性は必要ないから日本へ返したと。自分１人と思わせ、将来の工作員教育をジワジワと始めました。

自暴自棄になり自殺も考えましたが、朝鮮語を学ぼう、そうすれば周りのことが分かると決意しました。工作員は何も喋りませんが、人の好さそうなおばさんと話したところ、とんでもない所に来たと感じました。

1年3か月後、いきなり教育ストップ

拉致され1年3か月経った頃、工作員が来ても、挨拶だけして帰るのです。何か起きたな、と感じました。すると、ピョンヤンからかなり離れた招待所へ移され、更に4～5ヵ月して課長がやってきて、“どうだ　結婚するか”と言われました。実は、彼女はいるんだ、どうすると言われ、一人でいるのはとてもつらいので、すぐに“分かった”と答えました。それから2～3日後に彼女に会いました。すごく嬉しかったです。1週間後に結婚式を挙げようということになりましたが、工作員からは、日本語を喋ることも、北朝鮮に来てからのことも喋るなと、きつく釘を刺されました。

形だけの結婚式と新婚旅行

結婚式は招待所の食堂で、調査部の人が参列するだけです。新婚旅行も、ピョンヤン市内の主なところを車で1時間半ほど1回りしてきた程度の寂しいものでしたが、ただ一つ、一緒になれたという意味はありました。

しかし、何故、このタイミングで結婚させたかったのか疑問でした。日本に帰ってきてから分かったのは、ちょうどその頃、日本で女性秘書を募集していると嘘を言って拉致したレバノンの若い女性5人の内の2人が、ユーゴスラビアに実習に行った際、大使館に駆け込んでしまった事件がありました。これを機に、逃げないようにするため、ピョンヤンから離れた所に移し、かつ、結婚させて安定させろということになったものでした。

結婚後は‥‥

結婚したら、今度は日本語を教えろと言われました。

一方、子供が生まれた時、子供の将来を考え悩みました。悩んだ末、この国で一生生活する前提で育てることとしました。また、秘密保持のため、子供は150キロ離れた全寮制の学校に入れさせられました。子供には、在日朝鮮人として日本に生まれ、知り合って北朝鮮に来たこと、親以外の家族親戚は全て死亡したと、嘘をつきました。

1991年、大きなターニングポイントが訪れる

91年12月、旧ソ連が崩壊して援助をもらえなくなりました。また、中国は韓国と仲が良くなり北朝鮮は孤立状態となりました。生きる道として日本と仲良くしょう、韓国とも改善しょうと180度の転換をすることとなりました。

自民党の金丸副総裁と社会党の田辺委員長が金日成（キム・イルソン）と話し合い、日朝国交正常化を実現することとなりました。さらに、日本は植民地支配を賠償するとし、日朝交渉が始まりましたが、2年後に挫折してしまいました。原因は、大韓航空機爆破の犯人に日本語を教えた日本人女性を明らかにしたことにあります。

94年（平成6年）7月、金日成死去。金正日（キム・ジョンイル）時代になり、北朝鮮は厳しい状況が続きました。このため、韓国と日本との関係を改善しないといけないということになりました。

2002年3月、我々の存在を公表へ

君達を探していると言われ、世界の前面に出そうと、公表することになりました。1か月後にできたシナリオは、北に救われて来て幸せに暮らしているというもの。その姿を見させて、安心してくれというものでした。

同年9月、小泉総理の訪朝、北は拉致認める

このとき、同行の日本の外務省職員から本人確認されましたが、確認の前に、工作員から、当初、救われて北に来たというシナリオを、拉致されたということを認めて良いからと言われました。

小泉総理とのトップ交渉で金正日は、北朝鮮の拉致を認め、“私が指示したのではないが、下の者が勝手にやったこと。許してくれ”と謝罪しました。

24年振りに日本の土を踏む

北朝鮮が拉致を認めた結果、同年10月15日、“日本に行って来い”そして“親を説得せよ”の指令の下、日本の土を踏みました。子供は連れて行けず、子供には国内旅行に行ってくると言って嘘をつきました。

日本に帰って2日目、子供は返してもらうから、このまま日本に残れという家族と大喧嘩をしました。日本に行くとき北朝鮮は“今後は本人の希望次第”と世界に言っていたので、我々は頑張れば子供を返すのではないかと考え、日本に留まることを決断。家内にも了承してもらい、日本に残ろうということになりました。子供が帰るまで1年半かかりました。

拉致問題の解決に向けて、これからもご支援を！

今も北に残された5人は、我々が日本に帰ったことを知っています。何故、自分たちは帰れないのか、葛藤の中で暮らしています。14年も待たされているのです。

一昨年、ストックホルム合意で期待をしましたが、何も進展しません。こうした中で、精神的に耐えられるかどうか心配です。日本の家族も同じ思いです。

日本政府には、絶対に取り戻すという強い思いで交渉をやって欲しいと思います。そのためにも、多くの国民の皆さんの関心と声援が大きな助けになります。よろしくお願いします。

これで私の講演を終わらせていただきます。

ご清聴いただき有難うございました。

（　記録・編集　広報委員　石黒　勝夫　）

教育目標の達成を目指して

新潟県立村松高等学校　校長　今西　博一

新年あけましておめでとうございます。同窓会の皆様におかれましては、お元気に新しい年をお迎えのことと存じます。また、日ごろより、母校・村松高等学校の教育活動に多大なご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本校の教育目標は「世の中のこと、自分のことについて、常によく考えて判断し、将来を見つめつつ積極的に現実の問題に取り組むことのできる人を育成する」であります。この教育目標の達成を目指し、日々の教育活動を実践しております。　今年度の村松高等学校の様子を報告させていただきます。

平成２８年度入学者選抜状況は、募集学級３学級、募集定員１２０人に対しまして、入学者数１０５人であり、全校生徒３０７人(男子１５９人、女子１４８人)でスタートしました。五泉市内に５つの中学校がありますが、本校に在籍している五泉市内中学校卒業生数は２９８人、(98.0%)であります。この数字からも地域に密着した高等学校として、地域の皆様に信頼され、慕われる学校として、魅力ある学校づくりを更に推進してまいりたいと考えております。

次に、卒業生の進路状況についてでありますが、平成２８年３月の卒業生数は９７人でありました。専門学校等を含めた進学者数は３８人(39.2%)。４年生大学進学者は２人でした。就職者数は５５人(56.7%)で、その多くは地元五泉市内の企業を中心に就職しております。就職希望者は１００%就職している状況です。

この実績につきましては、徹底した個に応じた教育、つまり、平日の授業の他に放課後や夏季休業中の補習、計画的なキャリア教育(1年次：職場・上級学校見学会、２年次：インターンシップ、３年次：五泉市合同企業説明会等)の実践により、生徒の進路希望の実現に向けて教職員が生徒、保護者と連携を図りながら、学校全体として組織的に指導している結果であると感じております。

次に、本校における新規取組等についてであります。

昨年度から１・２学期に１週間の読書週間を新設し、生徒達は登校後、クラス担任からの連絡等を聞いた後、１０分間読書をします。この読書週間を導入するに当たり、同窓会の今井順彌様（高２回卒)からのご寄付の一部を使わせていただき新たに３００冊の図書を購入するとともに、学校図書館に人員を配置し、その活性化を図ったことを昨年度の会報でご報告させていただきましたが、今年度は、今井様のご意向であります「グローバルな人材育成のために」を具現化するために、電子黒板を２台設置し、既存の１台と併せて合計３台となり、教員が今まで以上に「わかりやすい、わかる授業」のための研究並びに実践を行っているところであります。

更に、現在、各学年１組から４組教室までエアコンが設置されておりますが、電子黒板を各学年４組教室に設置したことに伴い、各学年５組教室が選択科目教室としての使用が増加することが予想されたことから、各学年５組教室にもエアコン（計３台）を設置し、学習環境の整備に努めたところであります。

また、文部科学省の委託事業として「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の高等学校の研究推進校に昨年度指定され、今年度も継続（２年目）となりました。県内の高等学校では本校のみであります。本事業を通して生徒達の進路希望の確実な実現を更に推進できるものと確信しております。

上記の他、「英会話同好会」の設置、応援歌（第１応援歌「緑濃き臥龍ヶ丘に」）の歌唱指導等を行いました。

次に、部活動関係でありますが、本校には、運動部８部、文化部７部、２同好会があり、全校生徒の約７５%がそれぞれ目標を持って取り組んでおります。

野球部、サッカー部、バドミントン部等がキャプテンを中心に頑張っております。また、インターアクト部は、平成２８年８月１日から３日まで広島県で開催されました「第４０回全国高等学校総合文化祭　JRC・ボランティア部門」に新潟県代表として出場してまいりました。

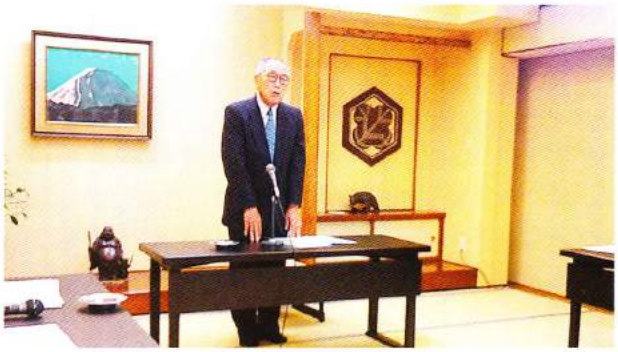
母校・村松高等学校は平成２９年に１０６年目を迎える歴史と伝統ある学校です。先輩方におかれましては、青春時代を謳歌した思い出の学校、素晴らしい母校であることと存じますが、現役の生徒達も前述しましたように本校の教育目標の達成を目指した教育活動における学習と松城精神「誠を尽くし　志をたて、必ず実行する」を確実に受け継ぎ、各自の進路実現のため、勉学に、部活動に一生懸命頑張っております。

この松城精神を確実に受け継ぎ、村松高等学校を母校として、心から愛し、「誇りを胸に」活躍してくれる有為な人材の育成に努めてまいりたいと考えております。今後ともなお一層のご厚情を賜りますことをお願い申し上げ、同窓会の皆様の益々のご健勝とご発展を祈念し、新年のあいさつとさせていただきます。

平成２８年村松高等学校の本部同窓会総会に出席して

平成２８年度母校同窓会の本部総会は、昨年８月２１日（日）、午後4時から村松の割烹「新瀧」において、総勢８４人ほどが出席して開催された。

東京同窓会からは、金子鶴男会長、吉井清副会長兼事務局長、私・大橋の３人が出席した。



上は荒木快英同窓会長　　右は今西博一学校長

はじめに荒木会長の挨拶があり、「松高を存続発展させる会」の署名運動は3万名を目標に始めたが、現在約1万5千名の協力を頂いている。「松高を連携型中高一貫校に」と云う取り組みを「山王中学校」に説明し、５月末に井上市教育長と懇談、６月末、「松高を存続発展させる会・阿部律雄会長」の打ち合わせ会議を行い、７月１３日に署名簿を持って伊藤市長と面談、「全面的に協力するので、特色ある学校を目指し努力して下さい」との言を頂いた。さらに、７月２５日には阿部会長と同窓会正副会長が署名簿を持参して「県教育委員会」へお願いに行って来たが、「地域の人達が、子弟を村松高等学校に入学させたいと思うような学校作り」を行わないと難しい、と云うことだった。７月２８日、その旨を伊藤五泉市長に報告し、今後とも一層のご協力をお願いして来た。

今後の課題は「松高を存続発展させる会」の運動が地域に根差し、卒業生を含む大きな輪にする事が大切なので、是非ご理解とご協力を賜りたいと締めくくられた。

金子会長からは、６月４に開催した第５９回東京同窓会定期大会の折には、荒木会長ほか役員の方々にお出で頂き改めて感謝申し上げます。今回は北朝鮮による拉致被害者で新潟産業大准教授の蓮池薫先生による講演を催し、拉致被害の生々しい実態を知るに及んで、解決には粘り強く息の長い取り組みが必要だと実感した次第。

２９年度大会は６０回の節目に当たるので、一人でも多くのご参加をよろしくお願い致したいと挨拶。

今西博一校長より松高の現状報告と当面は１学年３学級の体制を維持するため、１倍以上の応募者確保を目指して努力を継続していくと表明。さらに、本年度を含む今後の学校運営方針として「地域の皆様に信頼され、魅力ある学校に向けて……」に付いて詳細な説明をされた。

続いて、荒木会長を議長に選出、報告案件・審議案件とも事務局が簡明に説明し承認。また、役員改選について浅田副会長より「今は重大な継続案件をひかえ全役員重任」の提案があり、異議なく満場一致で承認された。

会場を移動しての懇親会は、ご来賓の挨拶に続き林様の乾杯で始まった。やがて村松合唱団の登場、「夏は来ぬ・夕やけこやけ・赤とんぼ　etc.」そして合唱団と共に全員で校歌の大合唱となり、フィナーレを迎えた。

五泉戊辰戦争考

鈴木長五（高１５回）

私たち年代五泉小学校６年次の修学旅行先は会津若松だった。初めての泊りに興奮していたこともあるが、私は東山温泉旅館近くを流れる川の音がうるさくて一晩中眠れぬ夜を明かした。楽しかった思い出の一つである。又あの頃の私の最大の楽しみは、親と一緒なら許して貰えたチャンバラ映画を観ることだった。嵐寛寿郎の颯爽とした鞍馬天狗、強面新選組の近藤勇など戊辰戦争の元になる歴史的背景など知る由もなく単に観ていただけだが、その中で確か「花の白虎隊」であったと思うが、それを観て、何も解らなかった自分にも白虎隊の少年達がやたら可哀想な話だった記憶が強く残っている。旅行の土産に木製の白虎刀を買って大事にしていた。

戊辰戦争とは1868年（明治元年）に明治新政府軍と旧幕府軍の間に起った内戦で、およそ一年半で新政府軍が勝利した。知る人は当然知っていただろうが、私自身が五泉と戊辰戦争の戦場が一体化したイメージを本当に抱いたのは子供時代や中高時代ではなく、恥かしながら、昭和45年にJR咲花駅前に戊辰戦争の佐取古戦場碑が建ったという事を知った時であり、何時頃だったかまるで覚えていない。五泉と新選組や白虎隊との繋がりなど想像だにしていなかった。

二頭の馬が疾風のように駆けてゆく。村松城を飛び出した、主従を乗せた二騎である。五泉まで攻め込んできた敵陣を目指す。……これは雲村　俊慥氏（村松高校第五回生）著の「小説　**仙寿院裕子**」の冒頭書き出し文章である。私は或る時機会があって、「先生、あの場面は一直線の五泉街道を突っ走る馬のスピード感と迫力がありますよね。」と聞いてみた。先生曰く、「実はあれは本当は木越街道を走って行ったんですよ。作家はよく嘘を書きますからね。」と静かに笑っておられた。それはとも角、馬上の一騎は第十代村松藩主・堀直休の夫人である。夫人は伊予大洲藩五万石領主の娘「裕子」で、直休没後「仙寿院」と改め、戊辰戦争では十二代藩主直弘を立て、村松藩存続のために大活躍をした藩の救世主である。

「五泉市史」によれば、紙面の都合上端折った表現を許して貰うとして、1868年閏4月、新政府軍は会津藩討伐のため、高田を出発。6月まで戦いは膠着状態が続く。7月25日新政府軍は柏崎から七艘の軍艦を繰り出し、新発田に兵5000余人を上陸させると情勢は一変した。27日水原陣屋の会津勢を敗走させた。29日は阿賀野川を挟んで分田渡場で大戦争となり、両軍とも大砲・小砲を打ちかけた。新政府軍は川向かいの平川原場に、会津藩は新郷屋に陣取った。

8月4日、新政府軍は新保の渡りから五泉に入って一帯を制圧。一隊は川瀬より四ツ屋辺りに小休止。一隊は村松に向かう。この日、沼津藩五泉役所は新政府軍に降伏し、村松城は薩摩藩・長州藩や降伏した五泉の沼津藩に攻められて落城する。村松藩兵は会津、米沢に退却するも、残った正義党約200人は8月5日に堀直弘を擁立し、新政府軍に降伏した。仙寿院裕子が大活躍をしたのはこの時で、３１才である。

「五泉市史」は又同年8月、村松方面から木越を経て五泉に来た信濃松代藩士の手記に触れている。その一部にあるのは、越後の男子はひ弱で消極的、女子は力強く働きものという評価の後…中略…女子は現実をしたたかに見つめ、戊辰戦争の困難の中にあってものびのびと行動していた。当時の記録には、鉄砲玉が飛び交う戦場で、新政府軍・同盟軍双方の兵士を目当てに、物売りにやってくる女性達の姿が描かれている、というくだりである。鋭い指摘であり、越後女の、イヤ「五泉のオナゴショ」の真骨頂を見せつけられたようで笑えた。

左図は画面左上の阿賀野川と手前早出川の合流地点付近の戦場風景である。

「誠に大騒動、前代未聞の戦いで、付近の住民たちは一睡もできなかったとも記されている。（パソコン水彩画）

ところで、会津藩といえば同時期に大活躍をしたスーパーヒロイン、NHK大河ドラマ八重の桜の**山本八重**がいる。私の下手な評など不要な超有名人であるが、あの鶴ヶ城の籠城戦では女だてらに自ら最新式のスペンサー銃で新政府軍に立ち向かった（当時24才）。後ほど銃から知識人に変貌を遂げるのであるが、私の視点は新政府軍に立ち向かったその姿勢である。藩命に従って、といえばそれまでではあるが、西の仙寿院裕子は必死に新政府軍に恭順の意を示すことにより、村松藩の存続を願い、東の山本八重は徹底抗戦をすることで藩を救おうとした。同じ時局を背景にして、この東西二人はあまりにも対称的な生き方の違いを見せ、胸の痛みさえ覚えるほどである。

あ と が き

あの固い徳川幕府の第二代将軍秀忠が生涯ただ一度？の浮気で四男の幸松が誕生。正室お江与（織田信長の姪）を憚って、子は信濃高遠藩主・保科正光預かりとなった。（後の保科正之）三代将軍家光は異母弟を公式に認め、後には会津藩23万石を与えた。大恩を感じた正之は「会津家十五条」を定めた。時代は下って、会津藩第九代目藩主・松平容保は上記十五条の第一条「会津藩たるは将軍家守護すべき存在……」を頑なに守り、会津戦争では白虎隊を初めとする大悲劇、大惨劇を招いてしまった。「逆賊」の汚名をきせられた容保と会津の人々の悔しさ、無念さを思って見る阿賀野川は戊辰戦争ラインであった。

今　村松にいて

金子トシ子（高１５回・旧姓吉田）

・ただ、前だけを見据えて　全力で楽しむ
・笑顔あふれる　温かい人になる
　　笑顔、たくさん咲かせて
・限界への挑戦
・人生は　退屈すれば長く
　　充実すれば　短い
・別れることがなければ
　　めぐり合うこともできない
・お前が死んでも、何もかわらない
　　だが、お前が生きてこそ
　　かわれるものもある

これらは皆、村松高等学校の中央廊下の壁にはり出されている言葉です。太く、勢いのある筆使いで書かれたこれらの作品は、書道部の手によるものと思われます。

生徒達は毎日、幾度となくこの前を通ります。皆が皆読んでいないのかも知れません。でも、これらは確かにそこに輝いているのです。どこかからの抜粋かもしれないし、又、自分で考えたものかもしれない。そんなささいな事はどうでも良いのです。

「こんにちは」――「こんにちは」――「ちわ～す」
生徒達の挨拶は、若々しく、さわやかです。

私は、母校である村松高等学校へ華道部の講師として通い始めてから、もう三十年にもなります。その間いろいろな事がありました。

年々、生徒の数が減り、定員に満たない年もありました。一部の生徒達の心ない行動により、荒れてすさんだ高校とのイメージがふくらんだ事もありました。

けれど、今は、違います。先生方、父兄の人々、卒業生と地元の方々、もちろん生徒達も一緒になって考え、立ちあがりました。そのおかげで、少しずつ少しずつ変わっていったのです。

少子化にともなう生徒の減少は否めません。でも、今、高校に集う彼等はとても明るく、元気な良い生徒達です。

私は華道という道を通して日々生徒達と接しています。部員数はそう多くはありませんが、生徒達は楽しく学んでいます。文化祭はもちろん、入学式、卒業式の晴れのステージ挿花も手がけます。

卒業する先輩をかこんでの記念写真には誇らしげな皆の顔があります。私達大人がとらわれている常識や概念にとらわれず、時として、若者らしい発想で花を生けてくれます。そして、とんでもなくユーモアに富んでもいるのです。「紅花」を生けました。ご存知のように万葉集では紅の花、源氏物語では末摘花として詠われています。この源氏物語にでてくる姫君の鼻が赤く、ちょこんとしてこの花にも似て可愛かったことから、末摘花と呼ばれたとか、との話をすると、生徒の一人が折れたこの花を自分の鼻の上にのせたのです。

「私も、末摘花になれますか？　」　皆大笑いでした。

　よそのみに　見つつ恋ひなむ 紅 の
　　末摘花の色に出でずとも

「遠くからひっそりと見ているだけで恋い慕っていよう。紅の末摘花のように、面にださなくとも」との秘めた恋心の歌とは似ても似つかぬ生徒達の姿でした。

でもそこには、純心でいじらしく、優しさに満ちた若者たちの姿がありました。そして、いつの時代も同じように、愛があふれています。

松高の廊下に書き並べられている言葉、若さ故に吐き出された言葉の数々、私はいつも足をとめて読むのです。

　お前が死んでも　何も変らない
　　だが、お前が生きてこそ
　　かわれるものがある

今の時代、あちこちで自殺のニュースを目にします。なぜなぜと問いたくなります。でもその人達にとって、それしか訴える手段がなかったとしたら……　今、私達は大人の責任として考える事が沢山ある様な気がします。

松高の存続が問題になっています。廃校にだけはしたくない、その思いで多くの署名が集められました。
中高一貫校に、との話もあります。一般普通科の他に、専門分野の課程をもうける事も視野に入っています。

これから最も必要とされる看護師、介護士をはじめ、ニットの街としてのデザイン課程等、いろいろな考えがあると思います。

今、若者に聞いてみると、キラキラ輝く毎日でありたい、そしてそういう仕事につきたい、けれどここには何もない、との答えが返ってきます。若者の望む街とは、学校とはどんなものを指すのでしょうか。

こんなにも自然豊かで、環境に恵まれた街、学校、とても貴重だと思うのです。これらすべてを無くして得るものがあるとすれば、何なのでしょうか。

でも確かに生徒達は今、楽しく学校生活を送っている、と、私は感じています。生き生きとして、はつらつとしている若者がここにいることに、ほっとしているのです。この街に住んでいる私達、そしてここから巣立った方々、今、とび立たとうとしている若者、いろんな人がこの街のことを思って暮らしています。どうすれば一番良いのか、等と考えるいとまもなく、時間は飛ぶように過ぎているのです。

私は、そして多分、生徒達も今、ここがとても気に入っています。そして私の見る限り彼等は今、輝いているのです。時々、ひどく横道にそれたりしながらも……

これからもずっとずっと輝き続けてほしい、そう願っている私です。

「であい」と「支え」に感謝

古田　美枝子（高１５回・旧姓川上）

私は、村松で生まれ、村松で育ちました。父は、私が生まれる半年前に他界しました。ですから母は、赤ん坊の私と二人の姉を抱えて、どれほど大変であったか計り知れません。しかし母は、とても教育熱心な人でした。「これからの世の中は、女性でも自立できるような力を身に付けておかなければならない」と話しておりました。

昭和２６年、村松小学校に入学、５～６年生の担任は、女性のＳ先生でした。美しく、音楽が得意な優しい先生でした。印象に残っていることは、学芸会で、「水よ」という美しいハーモニーの二部合唱の曲を歌った事です。この頃から、特に音楽が大好きになり、ピアノを弾いてみたいという気持ちが芽生え始めてきたのです。

昭和３２年、愛宕中学校に入学。すぐに合唱部に入部。初めてピアノに触りました。

早朝・昼休み・放課後などでピアノが空いている時間を探し、必死で練習をしました。

中学２年生の担任は、数学専門の男性のＡ先生でした。家庭訪問の時の事でした。Ａ先生は母に、「美枝子さんを音楽教師の道に進ませてあげたらどうですか」と話をしてくださったのです。教師という職業に、少し憧れを持ち始めた時期でもありました。これが切っ掛けとなり、Ｎ先生にピアノを習うことになりました。

昭和３５年、村松高等学校に入学。ある日の放課後、音楽室でピアノを弾いていたら、音楽教師のＩ先生が入ってこられ、「川上さん、どなたかピアノの先生についていらっしゃるの」と話しかけて来られました。中学校の時に習っていたＮ先生に、「中学卒業までしか教えられませんよ」と言われた事情を話すと、「それならば、私の所に習いにいらっしゃい」と声を掛けてくださったのです。この出会いが縁で、今度はＩ先生にピアノを教えていただくことになりました。Ｉ先生は進路についても熱心に相談に乗ってくださいました。音楽教師の道へ歩み始める切っ掛けを作っていただいたと思っています。それからは、また、ピアノづけの毎日でした。

当時、私の先輩に、新潟大学高田分校芸能科の音楽科に進まれた方がおられ、私も高田分校で音楽を学びたいという気持ちが、どんどん高まっていったのでした。

大学の受験科目は、専門の音楽と五教科の国語・数学・理科・社会・英語でした。夏休み中は、村松高校の教室をお借りして、五教科の勉強とピアノの練習をさせていただきました。

緑豊かな臥龍が丘を眺めながら、友と合唱部の活動にも励み、美しい音色のベーゼンドルファーのピアノを弾かせていただいた村松高校の３年間は、今も、忘れ難い思い出でもあり、私の宝物となっております。

お陰様で、昭和３８年４月、新潟大学教育学部音楽科に入学。早速、お世話になった先生方に報告に伺うと、「美枝子さん、おめでとう。家にピアノがなかったのに、よくがんばりましたね」と満面の笑みで喜んでくださいました。涙が出るほどうれしかったことを今でも鮮明に覚えています。

新潟大学卒業後は、南魚沼郡六日町中学校・東蒲原郡上三川村立西川中学校に勤務。それから栃木県に異動して五つの学校に勤務。最終校は、宇都宮市立城山中央小学校で校長として３年間勤めさせていただきました。「花と小鳥の学校」を合言葉に素直で明るい子供たちと、教育熱心で協力的な保護者と地域の皆様に支えられて過ごしたこの３年間は、私にとって最高に幸せな教員生活でした。

平成２６年１０月１１日、さくらんど会館で「ベーゼンドルファー、ピアノ修復記念演奏会」が開催されました。演奏会では、新潟大学教育学部高田分校時代の恩師の佐藤峰雄先生（新潟大学名誉教授）と、田中幸治先生（新潟大学教育学部准教授）の心に浸みわたる素晴らしい演奏をお聴きし、ベーゼンドルファーの素敵な音色に魅了されました。

コンサート終了後のパーティー会場では、大学を卒業して以来、４８年ぶりに、佐藤峰雄先生にお会いすることが出来ました。学生時代のことをよく覚えていてくださり、感激でした。そこでは、久しぶりに、松高合唱部時代の同学年の６名の皆様にもお会いし、旧交を深めることができました。

今、振り返ってみると、沢山の素晴らしい方々との「であい」と沢山の方々の「支え」により、私は、ここまで歩み続けて来ることが出来たと思っております。

どのような「であい」も一生に一度の「であい」であると心して、誠意を尽くし、感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思います。

最後になりましたが、この原稿を書く機会を与えてくださいました、村松高等学校東京同窓会の鈴木長五様に、心より御礼申し上げます。

２０１６年8月　記

春から夏へ

塩原　知子（高十五回）

観梅やビニール傘の連れ立ちて
春の宵小部屋の灯りやはらかく

菜の花やきらりと光る空ボトル
子らの声川面をすべり風光る

梅雨明の中州の波の光りけり
田巡りのをりをり屈み梅雨上がる

雲の峰釣人竿を振り上げて
日除帽顔を拭きてはまた被る

冬　景　色

堤　桂子（高１５回）

緋色の葉をわずかに残した桜の木の上に青空が広がる。関東の冬は、カラリと明るい。

世に三・八豪雪と言われた年、私は、五泉から村松高校に通っていた。授業が打ち切られた時、既に電車は止まり、皆、家路を急いだ。小学校からの友人、のんびり屋のＹ子と私は、ずい分遅れて歩き出した。村松と五泉の間には今泉駅が一つあるだけ。線路に沿った一本道は、同級生のカップルが時折肩を並べて帰る。電車の窓から首を出して、それをからかう男子生徒がいたりしたから、徒歩で帰る大変さは、予想していなかった。

暗い空からは絶え間なく雪が降り続き、傘はすぐに重くなる。人がほとんど通らないので、一足毎に積った雪が長靴に入り込む。両側には田んぼが広々と続くはずなのだが、何日も止まない雪で壁が出来、何も見えない。おしゃべりな私達も、最初の元気はどこへやら、だんだん心細くなり、無口になっていた。四時間ほど歩いて汗びっしょりになった頃、町の灯りが近くに見えてきて嬉しかったこと。

大冒険から命からがら戻った人のような、疲れてはいても高ぶった気分で家に着いたら、母が、近所の小母さんと、ひさしの下で立ち話をしていた。「お母さん」と抱きつきたい心持ちだったのに、母は「あら、桂子お帰り。大変だったねえ」と言うと、すぐに小母さんと話を続けた。私は、何だか腹立たしく、みじめになって、自分の部屋にはいると、少し泣いた。

過日、同期会の折、蒲原鉄道が廃線になった話題から、豪雪の日の話になった。かなりの人数が学校近くの友人の家に泊ったと言い、酒の勢いもあってか、その夜の経験を面白おかしく語る。外泊など思いつきもしなかったＹ子と私は、「馬鹿だったわねえ」と融通のきかなさを嘆き合った。そのくせ、二人共関東に住むようになったせいだろうか。暗く重いあの経験を、小さくなった口の中の飴玉のように、転がしては、いとおしんでいる。

第２５回松高東京同窓会親睦ゴルフ大会

当初の開催日を変更して、平成２８年４月２７日（水）越生ゴルフクラブに於いて、第２５回親睦ゴルフ大会が６名の参加を得て開催された。なお、競技は新ペリア方式で行われ、成績は下記の通り。

成績

優勝：石黒 久七、２位：斉藤 豊、３位：五十嵐 勝栄

参加者

金子　鶴男、大橋　貞夫、今井　英雄

斉藤　豊、石黒　久七、五十嵐　勝栄

１０月６日の第２６回親睦ゴルフ大会は台風の影響で中止となり、平成２９年４月桜満開の頃開催予定です。会員高齢化の所為もありましょうが、参加者の減少が憂慮すべき状態にあり、皆さんの奮起を望む次第。

第３１回和紙はりえ銀座展開催

木村孝子（高８）さんが所属されている美杉会はりえ展が２０１６年５月２４日～２８日、銀座の美術家連盟画廊で開催され、２５日の午後お声がけした同窓生と拝観してきた。

見事な作品ばかりで、皆さんにも次回の開催時には、ぜひともご覧いただきたいと思う。

同窓のみなさん、右から２人目の方が木村さん

編集後記

●会社勤めなどをしている方は、殆ど六五歳で退職されます。

退職後の生活を元気に過ごすには、秘訣があるということです。「**きょうよう**」と「**きょういく**」です。「教養」、「教育」ではありません。「**今日、用がある**」、「**今日、行く所がある**」ということです。何も用事が無く、どこにも行かない毎日では生活に張り合いが持てないということです。

●これでは、外に出るのも億劫になり、段々**孤立**してしまいます。孤立は、**タバコを吸うよりも健康に悪い**そうです。孤立しないためには、町内会、趣味の会、同級会、ＯＢ会など、一つより二つ、二つよりも三つ、四つと、顔を出せる集まりや知り合いを多く持つ人ほど健康に良いそうです。

（石川善樹著『友達の数で寿命は決まる――人とのつながりが最高の健康法』）

●そうした集まりの一つに、是非、村松高校東京同窓会も加えていただきたいものです。ご一緒に母校を語り、故郷を語り、明日を語り合いましょう。

現役バリバリの方も勿論、一人でも多くの方のご入会を「お待ちしていま～す」

広報委員　石黒　勝夫

原稿送付先

☆石黒勝夫　宛

〒166-0001 杉並区阿佐谷北 6-32-19

Tel・Fax：〇三-三三三〇-四五六四

E-mail：isgrkto-214@outlook.jp

平成２９年２月　第５８号　　表紙の題名・題字は佐伯益一氏（旧中２７回）の書

発行人　新潟県立村松高等学校東京同窓会　広報委員会

新潟県立村松高等学校　東京同窓会事務局

〒190-0011　東京都立川市高松町２－３７－１８

Tel・Fax　042-527-6482（吉井　清）

東京同窓会ＨＰアドレス：http://www.matsukou-tokyodousoukai.net